

大島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	校内練習船実習
科目基礎情報					
科目番号	0222		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	商船学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	実験実習指導書/大島丸実習ノート/キャリアデザインノート/配布資料				
担当教員	杉本 昌弘, 山口 伸弥				
到達目標					
1. 出入港各配置における運転操作を, 英語を用いて適切に行うことができる。 2. 船橋ならびに機関室当直各業務および引継ぎを, 英語を用いて適切に行うことができる。 3. Mゼロチェックリストに従い, 機器の運転状態を確認することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	出入港各配置における運転操作を, 英語を用いて行うことができる。	出入港各配置における運転操作を行うことができる。	出入港各配置における運転操作を行うことができない。		
評価項目2	船橋当直各業務および引継ぎを, 英語を用いて行うことができる。	船橋当直各業務および引継ぎを行うことができる。	船橋当直各業務および引継ぎを行うことができない。		
評価項目3	Mゼロチェックリストに従い, 機器の運転状態を説明することができる。	Mゼロチェックリストに従い, 機器の運転状態を確認することができる。	Mゼロチェックリストに従い, 機器の運転状態を確認することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本校 (1)-b 商船 (2)-a					
教育方法等					
概要	構内練習船実習の目的は, 練習船の運航実務を実際に体験することにより, 座学課程で学習中の船舶運航に関する知識を実践の場で活かし, 船舶職員として必要な技能ならびに行動習慣を身に着けることである。				
授業の進め方・方法	実習日課は, 「実習計画書」に書かれた時間割に従って行う。 実習態度、課題、下船試験により評価する。 後期 3泊4日				
注意点	(1) 万全の体調で積極的に取り組むこと (2) 号令、アンサーバック、報告は時と場合と場所を考慮した声で行うこと (3) 「安全第一」に心がけ、指導教官及び乗組員の指示に従うこと (4) 事故防止のため、服装、頭髪を整え、定められた保護具を着用すること (5) わからないことは早めに質問すること (6) 乗組員の許可なく、スイッチ、バルブ、開口部などの操作を行わないこと				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	船舶要務	乗船中の一般的注意事項を遵守できる。	
		2週		船内規律を守り, 集団生活をおくることができる。	
		3週	機関運転	主機関の暖機, 運転準備および終了作業を, 英語を用いて行うことができる。	
		4週		発電機の運転および配電盤操作を正確に行うことができる。	
		5週		出入港に伴う機関室定常作業の概要が理解できる。	
		6週	機関当直	チェックリストに従い, 機関室内機器の運転状態を点検することができる。	
		7週		データロガーを用いて機関運転状態を把握することができる。	
		8週		機関室航海当直の引継ぎを, 英語を用いて行うことができる。	
	2ndQ	9週	機関要務	主機の運転性能を測定し, 各種効率を求めることができる。	
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			

		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	0	0	0	40	0	60	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	40	0	60	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0